



なつのかも



本校ホームページ新
QRコードです。スマホ
などからも閲覧できま
す。ご活用ください。

第166号 (R5. 5. 31)

練馬区立光が丘夏の雲小学校

全て財産

副校長 市村 大

5月27日、素晴らしい天気恵まれた中で、光が丘夏の雲小学校第13回運動会が行われました。昨年度は6月の第一週に実施したので、昨年度に比べて練習時間は短かったですが、全学年が精一杯の準備を行い、当日を迎えました。朝からたくさんの保護者の皆様が来校され、子供たちに大きな声援を送ってくださいました。また、本当にたくさんの皆様に運動会後の片付けも手伝っていただきました。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

それぞれの学年に対する感想を書くと気持ちが入りすぎて長くなるので、種目ごとに振り返ります。まずは、表現種目。1年生は1年生なりの、6年生は6年生なりの感動がありました。もちろん、学年によって体の大きさも表現できるレベルも違いますから、一概に比較はできません。でも、全学年に共通していたのは「みんなでつくりあげよう」という一致した願いでした。複数人が集まらなないと生み出せない迫力や感動が表現種目にはあります。みんなの願いが一致し、同じ方向を向いたときに発出されるエネルギーは、「 $1+1=2$ 」のような単なる足し算ではなく、何倍にも膨れ上がるものとなります。特に6年生のそれは、小学校生活最後という思いも加算されているので、周囲にも大きな感動を与えていました。

次に、奇数学年が取り組んだ団体種目。個人の勝負ではなく団体戦なので、いかにチームを勝たせるか、そのために自分に何ができるのかということが大切になってきます。全員がチームの勝利に向けて全力を尽くしていました。その姿は見ている人たちに感動を与えました。しかし、どんなに頑張っても、どんなに工夫を重ねても、勝負である以上報われない結果になることもあります。負けてしまったとき、「自分は頑張った。負けたのはあいつのせいだ。」と、それを誰かの責任として片付けることは一番簡単かもしれませんが、そういう考えをもってしまうのも人間です。でも、運動会の場で、そういう場面は見られませんでした。勝っても負けても、お互いを称え合い、仲間を称え合っていました。どんな結果も受け止め、それを成長のエネルギーに変える姿が、団体種目を通して見られました。

そして、偶数学年が取り組んだ短距離走。これは、完全に個の勝負です。信じるものは己の走力のみ。スタートからゴールまで、自分を信じて走り続けること。表現種目や団体種目に比べて、非常にシンプルで、とってもしやすい種目です。でも、実はどの種目よりも見ている人の心を熱くさせ、自然と大きな歓声が沸き上がる種目です。足が速い・遅いはいりますが、「走る」という運動の原点であり、手を抜かずに「走る」姿こそ、運動会の花だと感じています。私自身、非常に運動が苦手で、学年でも1・2を争う足が遅い児童でしたが、小学校の運動会で不思議と一番覚えているのは、この短距離走です。

忘れてはならないのは、係児童たちの活躍です。高学年を中心に、選手として出場するだけでなく、運動会を支える裏方として活躍してくれました。きっと疲れていたと思いますが、自分の役目に一生懸命取り組む姿は、競技とは違った感動を与えてくれました。こういう姿を見てきた下学年が、自然とそれをまねていき、素晴らしい伝統になっていくのだと感じました。

今回優勝した白組のみんなは、勝利の喜びに酔いしれたと思います。今回準優勝だった赤組のみんなは、何とも言えない悔しい気持ちが残ったことと思います。でも、その勝者としての喜びも敗者としての悔しさも、全てが財産となって自分の糧になります。努力して勝ち取った喜びは、次への自信と成功体験を与えます。努力して敗れた悔しさは、次の勝利に向けての蓄積されたエネルギーとなります。どちらも、生きていくうえで絶対に経験しなくてはならない感情です。どんな結果も、どんな経験も、全てを自分の財産とし、次に向かっていきましょう。